

# 正恩氏34歳「長期戦略の企み」

自民党総裁外交特別補佐の河井克行衆院議員「写真」が17日朝、都内のホテルで「金正恩(キム・ジョンウン)氏を甘く見るな」と題して講演した。



「超強硬路線だった北朝鮮の金正恩朝鮮労働委員長は、『対話』路線に舵を切った。3つの要因がある。『恐れ』『焦り』『たぐらみ』だ」

河井氏が続けた。「米軍の軍事行動への恐れ。経済制裁への焦り。しかし、正恩氏は受け身だけでなく、したたかに、たくらみを加えた。『日米韓の分断』と『米韓同盟の解体』だ。正恩氏のすべての行動の裏に、たくらみがある」

河井氏「正恩氏は関係国を手玉

に取っている」という。「米国を牽制(けんせい)するたに中国を2回訪問した。中国を牽制するために、ロシアへ外相を派遣し、日本を牽制するために、あえて無視している」

正恩氏は今、34歳とされる。この点を河井氏は強調して言った。「あと20年経っても、54歳だ。選挙で落ちること

も、政権交代もない。長期戦略に出られる。今の包囲網を何とか突破しさえすれば、外国からの援助も投資も来るし、韓国企業が進出して豊かな北朝鮮をつくれる。彼の悲願は、北朝鮮主導の朝鮮半島統一だ」

これに関連して、河井氏は「在韓米軍の撤退」に



鈴木棟一の風雲永田町 5836

は、これまで在韓米軍を『金のムダ』と公言してきた。この点で不安が残る。もし、在韓米軍が撤退すれば、日本にとって悪夢だ。これを機に国連の制裁が解除され、韓国で『親北』政権が勢いづく。正恩氏による朝鮮半島の統一が進む。日本との境界が、現在の北緯38度線から対馬海峡までおりてくる。この認識を米国の国会議員に伝えて同意してくれた」

6月12日にシンガポールで予定される、トランプ氏と正恩氏による米朝首脳会談について。「これまで北朝鮮の口はワソ、

欺き、だまされた。これが繰り返される恐れがある。決して楽観できない。『完全かつ検証可能で不可逆的な非核化』(CVID)について、水準を下げた内容で米朝合意があってはならない。トランプ氏は11月の中間選挙に向け、何らかの実績がほしい。会談を成功させたい気持ちが強すぎる」

最後に、「日本だけが蚊帳の外」論について。「北朝鮮への圧力ばかりで、安倍晋三政権は孤立しているとの見方がある。北朝鮮は米国人3人の解放の裏で、世論の分断、攪乱(かくらん)を行っている。『米国の人質は帰ってきたが、日本人拉致被害者はどうなった』というのは、日米を離間させる動きだ。『蚊帳の外』論は結果的に、北朝鮮の策謀に乗せられている」(政治評論家)

河井氏「在韓米軍の撤退」に

河井氏「在韓米軍の撤退」に

## 河井克行氏「関係国を手玉に」